農業女子力 くめなんガールズファーム 岡山県久米南町

「農業＋女子力」で高齢化が進む町を盛り上げる

高齢化率が県内トップの久米南町。これを食い止め、町を活性化させるためにスタートした「ガールズファーム」。人材サービスを行う企業、パソナが「地方創生」に取り組む。

岡山県の中部に位置する久米南町。上籾・北庄地区には「日本棚田百選」（農林水産省）に選ばれた棚田もあり、風光明媚な景観が広がる町だ。

1992年（平成4）には「川柳とエンゼルの里」というキャッチフレーズを掲げ、川柳による町おこしを図るとともに、エンゼル（子ども）の数が増える将来に期待してきた。

しかし、少子高齢化の加速は止まらない。2017年1月時点で町の人口は5016人。ここ数十年間で半分以下に減少した。中でも深刻な課題は高齢化。65歳以上の人口が占める割合を表す高齢化率は40％を超え、県内で最もお年寄りが多い町となっている。

そこで立ち上がったのが、人材サービス大手・パソナグループの「パソナ岡山」。同社は2016年に女性の農業実習生を受け入れることで町の活性化を目指す「くめなんガールズファーム」を開設、同年8月から活動を開始した。

事業を担当する、地方創生事業本部の隈河紀郎さんは言う。

「もともとは別の都市・農村交流事業で美しい自然が残る久米南町上籾地区と出会ったんです。婦人会の方々が作るお米や野菜もとてもおいしく、なんらかの形でこの地域の魅力を発信し、町を活性化できないかと考えました」（隈河さん、以下同）

そこで浮上したのが「くめなんガールズファーム」プロジェクト。同社がメンバーを雇用し、農作物の栽培、収穫、出荷などの実習を通じてノウハウを教える。さらに、農業（1次産業）、食品加工（2次産業）、流通・販売（3次産業）が一体化した「6次化商品」と呼ばれる農産加工品を生み出そうという狙いもある。

指導にあたるのはJA津山の職員や地元の農業指導員。農業に関しては素人のメンバーたちに基礎知識から教えている。

「1年目のメンバーは20代から40代の女性ですが、IT企業や栄養士などを辞めて飛び込んできてくれました。応募の動機も『自分で作った高機能野菜をカフェで提供したかった』『いずれは自分で無農薬の野菜農家をやりたい』『農業高校出身だが農業経験はなく、自分を変えたかった』とさまざまです」

久米南町は果物の一大産地で、ユズの出荷額が県内1位。また、古くから栽培されているブドウの作付面積も県内一の広さで、「山手ぶどう」というブランドで知られている。これに対して「くめなんガールズファーム」で栽培しているのは、ホウレン草、ナス、トマト、ジャガイモ、小松菜、水菜などの野菜が中心。冬季はハウス栽培も行う。

「自分が種を蒔いた野菜を収穫する時は、やはり皆さん楽しそうですね。また、行事への参加や日々の情報交換などを通じて地域の方々との交流も活発に行われています」

いずれにせよ、プロジェクトはまだ始まったばかり。「くめなんガールズ」たちが地域活性のプロとして独り立ちする日が楽しみだ。

（石原たきび）

農業のプロによる指導でトラクターの畝（うね）立ても自由自在。冬季栽培用のビニールハウスも自分たちで設営する。

収穫した野菜は産地直送市場の「サンサンくめなん」で販売される。また、地元の婦人会メンバーと調理実習も行う。

取材協力・写真提供＝パソナ岡山　https://www.michinoeki-kumenan.jp/27/